

# 婚就活の提案

A proposal to spread an idea of “KONSYUKATSU”

多摩東京大学生会  
橋功大志<sup>1)</sup>, 佐藤春里<sup>2)</sup>, 門田照咲<sup>3)</sup>  
指導教員 高永皓<sup>4)</sup>

- 1) 帝京大学教育学部 初等教育学科所属
- 2) 日本文化大学法学部 法律学科所属
- 3) 中央大学文学部 人文社会学科東洋史学専攻所属
- 4) 拓殖大学客員教授研究員・韓国統一振興院専任教授

キーワード：少子高齢化，大学生，未婚化，晚婚化，人口の自然減少

## 1. 緒言

八王子市では、少子高齢化が問題となっている。このまま少子高齢化が進めば、経済的にも社会的にも多くの影響が出てきてしまう。

この少子高齢化の原因としては、女性の社会進出や結婚・家族に対する価値観の変化からくる未婚・晚婚化があげられる。

そこで我々は、この少子高齢化の原因である未婚・晚婚化の解決のため、「婚就活」という内容を提案する。

## 2. 研究内容

### i. 婚就活

我々は、まず若い世代の結婚に対する考え方を知るため、結婚に関するアンケートを行った。その結果、7割を超える学生が結婚への希望を持っている反面、「経済面の先行きの不透明さ」や「適当な相手に巡り会えるか」といった不安を抱えていることが分かった。この結果をもとに、仕事や学業と、結婚や家庭生活を同時に考え準備する「婚就活」という概念を打ち立てた。

### ii. 昨年度までの検証と結果

昨年、我々は学生が持つ結婚への経済的な不安に焦点を当て、不安解消のために、株式会社 IBJ

(2006年2月設立、東証一部上場、代表取締役社長 石坂茂)様のご協力を頂いて、ライフプランニングイベントを開催し、不安解消の効果を検証した。その結果、実施前には参加者のうち15人が結婚に対して経済的な不安を抱えている回答したが、実施後には14人が今回のイベントを通して経済的な不安が解消されたと回答した。また、19人が結婚や就活を含めた自分の将来について考えてみようと思ったと回答した。

### iii. 昨年度までの考察と課題点

以上の結果より、「婚就活」の概念は未婚化、晚婚化、及び若年層の結婚への意識低下に対して効果があるとみなすことができた。

課題としては、そもそも問題として未婚化、晚婚化が少子高齢化に影響しているのかという点、婚就活が未婚・晚婚化の解決に効果があるならば、どのように広めていくのかという点、また、もう一つの不安要素である「適当な相手に巡り会えるか」という内容に対してはどのように解決していくのかという点があげられる。

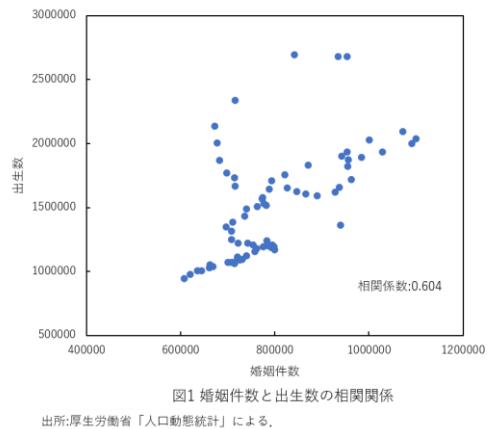
これらの課題点について今年度は検証と解決方法の提案を行った。

### 3. 検証結果及び考察

#### i. 検証内容及びその結果

未婚・晩婚化が少子高齢化に影響しているのかという点に対しての検証を行った。検証方法としては、婚姻件数と出生数の相関係数を算出し、相関があるか確認を行った。その結果を以下に示す。

相関係数は 0.604 となった。



#### ii. 考察

以上の結果より、この 2 つのデータには正の相関があるといえる。結婚する人が減ってしまうと出生数に影響が少なからず出てくると考えられる。よって、少子高齢化の抑制のために、未婚・晩婚化対策は有効であるといえる。

### 4. 課題に対する提案

#### i. 「婚就活」周知に対する提案

婚就活の概念は未婚・晩婚化や若年層の結婚への意識低下に効果的であるという結論を得たが、この婚就活をどのように多くの人に周知するかという課題が浮かび上がってきた。そこで、我々は、行政・企業と連携した婚就活に関するシンポジウムの開催を提案する。

具体的な内容としては、ライフプランニングとグループディスカッションを行う。

八王子市では、子育てのしやすいまちづくりのため、多くの支援を行っている。その支援内容などをライフプランニングの前に説明して頂き、それを踏まえてライフプランニングをしてもらうことにより、八王子に住み子供を育てるメリットを周

知することができるを考える。

メリットがあれば八王子で家庭を持とうと考える人は多くなるはずである。

そのため、行政・企業との連携によるイベント開催を提案する。

#### ii. 不安要素に対する提案

これまで我々は経済的な不安に対しての解決策を模索してきた。しかし、結婚への不安要素には適当な相手に会えるかという点もある。この不安に対しての解決策として、行政の認定を受けたマッチングアプリの推進・開発を考えた。

マッチングアプリは近年、種類が増え利用者も年々増加している。また、マッチングアプリによって結婚したカップルの離婚率が低いのも特徴であり、このコロナ禍でも、相手を探すことができるこどもメリットとして大きい。

しかし、マッチングアプリの利用者の中でも結婚の意識に違いがあったり、結婚しているにも関わらず登録する人や遊び目的で登録する人を見抜くことができなかつたりとデメリットもある。

そこで、行政と連携したマッチングアプリの開発を考えた。行政の認定を受けたアプリであれば上記のような悪質なユーザは下手に登録しようとは思わない。逆に結婚への意識が高いユーザには安心して利用してもらうことができ、アプリ自体の質も高まり、結婚する割合は高くなると推測する。

また、学生向けのマッチングアプリにすれば、学生のうちに相手を見つけ、その人とライフプランを考えていくことで、経済的不安もより緩和されるのではないかと推測する。

これらの内容から我々は、行政の認定を受けたマッチングアプリの推進・開発を提案する。